

352電力設備を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	1	8 ～ 9	入浴介助にて患者を車椅子へ移乗中、患者が脱力状態となり、支えたところ右腰部に痛みを感じた。急性腰痛症及び変形性腰痛症となった。	41	13	11001	300 ～ 499 人
2	2018	2	11 ～ 12	停電年次点検の復電作業時に、充電状態にも関わらず金属製の操作ハンドルで、高圧充電部に触れ感電負傷した。	30	13	170209	100 ～ 299 人
3	2018	2	22 ～ 23	配電盤に端子を取り付けようとしたところ、大規模なショートが発生して、左の額と両目を火傷した。	63	13	11209	—
4	2018	4	23 ～ 24	地下鉄車両を整備するピットにて、車両故障を調査中に車両電源は切りとしたが、車両に蓄電された放電をするスイッチを投入せず、点検のため高圧回路に触れてしまい感電した。	33	13	40101	100 ～ 299 人
5	2018	4	10 ～ 11	住宅3号棟の地下電気室で、電気保安業務の月次（目視点検）点検中に、キュービクル式受変電設備の高圧（6,600V）の保護用アクリルパネルを取り外し、キュービクル内に潜りこみ感電（衣服も燃えた）し、死亡した。	64	13	170209	30～ 49人
6	2018	5	8 ～	資材を置くために、地面補強する鉄板を溶接作業する際に、溶接機に電源を入れるためコンセントに繋ごうとしたらショートし、	37	11	150102	30～ 49人

			9	負傷した。					
7	2018	7	14 ～ 15	原料焼結変圧室の1焼結メインブロウ高圧盤内の点検作業に着手し、オイルサーキットブレーカーからスパークが発生し、被災した。	39	16	11001	1000 人 以 上	
8	2018	7	14 ～ 15	プラスチック工場フィルム製造工程で、フィルムを引き取るためのニップロールという装置の電磁弁の交換作業を行い、電磁弁が作動した音に驚き、肩を痛めた。	63	19	10802	500 ～ 999 人	
9	2018	9	9 ～ 10	コンクリートパイル製造工場にて、故障中の電動機の電源ブレーカーを確認していたところ、一次側電源が通電中に電源BOX内のブレーカーに工具（ドライバー）で接触し、電撃を受けた。	40	13	10909	30～ 49人	
10	2018	9	9 ～ 10	コンクリートパイル製造工場にて、故障中の電動機の電源ブレーカーを確認していたところ、一次側電源が通電中に電源BOX内のブレーカーに工具（ドライバー）で接触し、電撃を受けた。	40	13	10909	30～ 49人	
11	2018	9	9 ～ 10	コンクリートパイル製造工場にて、故障中の電動機の電源ブレーカーを確認していたところ、一次側電源が通電中に電源BOX内のブレーカーに工具（ドライバー）で接触し、電撃を受けた。	40	13	10909	30～ 49人	
12	2018	9	9 ～ 10	コンクリートパイル製造工場にて、故障中の電動機の電源ブレーカーを確認していたところ、一次側電源が通電中に電源BOX内のブレーカーに工具（ドライバー）で接触し、電撃を受けた。	40	13	10909	30～ 49人	
13	2018	10	16 ～ 17	工場内で作業を終え、200vの電源を切ろうとして左手で触れた際にスパークし、左手に電撃傷を負った。	27	13	11209	—	
14	2018	10	9 ～ 10	高圧受電施設内で、高圧受電盤の裏側で作業していたところ、保護カバーがない状態でケーブルのジョイントボルトを外そうとして感電死した。	70	13	170209	1～9 人	
			13	建築物の環境衛生管理のため巡回点検中、被災者が旧非常用発電					

15	2018	11	～	機室で倒れていた。新設された受変電設備を確認する際、高電圧が充電されている箇所に手が触れ、もう一方の手から電気が地面に流れたと思われる。	51	13	150101	10～ 29人
----	------	----	---	--	----	----	--------	------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。